

作業効率の飛躍的向上と高いコストパフォーマンスと共に 信頼性・運用性の向上を実現したサーバー環境 “WIRED SERVER”

～ DaVinciの導入に際してワークフローの効率化を実現したニアライン共有サーバー ～

WIRED SERVER

ユーザー事例

株式会社テクニカルランチ (PPC)

様

WIRED SERVER

株式会社TYOテクニカルランチ・PPCについて

株式会社TYOテクニカルランチ PPC(東京都渋谷区 代表取締役社長 権藤和幸様)は、株式会社ティー・ワイ・オー(TYO)のグループ企業として南麻布にある本館と別館内に、Avid編集室8部屋、Autodesk編集室8部屋(2013年2月取材時点、2014年5月現在10部屋)、MA室3部屋を構築オフライン、オンライン、グレーディングからMAまで一貫したポストプロダクション事業を行っています。

写真左から
ポストプロダクション事業本部
執行役員 小野 秀一様
カラリスト 平田 藍様
オンラインエディター 山崎 祐資様



導入の経緯

近年のファイルベース化によるポストワークの中で重要視されてきたカラーグレーディングワークの強化とAutodeskシステム系のサーバー強化を検討されていました。

様々な検証の結果、グレーディングには業界に先駆けてWindows版のDaVinci Resolveを導入して頂きました。

「グレーディングを検討し始めた時にコスト、機能などの点からDaVinci Resolve(当時はMac版)で行こうという事は決めていました。

今回Mac版でなくWindows版のDaVinci Resolveに決めたのは、新しいものへのチャレンジ精神と他社との差別化という観点からでした。」(小野様)

サブ機として2式のiMacベースのDaVinci Resolveも同時に導入されています。

また同時に様々な検証を通してAutodesk系システムと親和性、コストパフォーマンスの高さが実証されたことが、サーバー強化としてWIRED SERVERの導入への追い風となりました。

最終的に、Autodeskシステム8式(2014年5月現在11式)及びSmoke for Mac1式と、DaVinci Resolve4式で共有し、さらにISISとも連携する形でWIRED SERVERを導入いただき、DaVinci Resolveの検証も含めシステム全体に渡る協力をさせて頂くことができました。

導入のポイント

当初WIRED SERVERは、Autodeskのセンターサーバーとして検討いただいていたのですが、グレーディングルーム検討の過程で、DaVinci Resolveとのデータ連携要件が出たことで、システム導入後のサポート体制をどのように取れるかが重要となり、検証などを通して協力させて頂いたことが技術的にも信頼関係を築くことに繋がりました。

「Windows版に関してはかなり悩みました、実際にWindows版に関して、事前検証や導入後のサポートなど選択肢があまりない状況で、VGIさんが色々な面に対応してくれたことが非常に良く、WIRED SERVER導入も含めてシステム全体を任せられることは非常に重要なポイントでした。」(小野様)

オフラインとのデータ転送に於いて非常に高いパフォーマンスを発揮したことは、結果として社内のセンターサーバーとして運用の可能性を大きくしました。

「ISISとの接続検証でもMXFデータをオフラインに投げる際のレスポンスの良さは非常に良いですね。」(山崎様)



新設されたGRADING ROOM



DaVinci Resolveとの連携により社内サーバー的な性格が強くなりオンラインだけでなくオフライン系でのデータ転送効率の向上ももたらしました。

「MXFのやり取りで、例えばオフラインで20GBほどのデータをデジタル化するのに40分から1時間掛っていたのですが、それが本当に何分の一という位の時間でできるので非常に効率が上がっています。勿論オンラインでも早いので満足しています。」(山崎様)

編集の立場からは、使い勝手の良さも評価されました。

「今まで検証してきたサーバーと比較してWIRED SERVERでは、今までの使い勝手がほぼそのままローカルのような感覚で使用できる点はエディターとして非常に助かっています。」(小野様)

「従来コピーなどの"手間"がかかっていた作業がなくなるだけでなくInfiniBandなど高速なインフラの恩恵も受けられることとなり、例えば、Macに取り込むのに数時間、そこからFlameにとりこむのに何時間といった作業がなくなるのは作業効率向上に非常に大きいことでした。」(小野様)

オンライン、オフライン、グレーディング各作業でWIRED SERVERを介することで高速かつ、利便性の高いシステム環境が構築できたと同時に社内サーバーとしても制作環境全体のパフォーマンスの向上に貢献できました。

「運用面からも期待以上の成果を出していると言えます。結果良い買い物をしたと思っています。」(小野様)

「長尺ものを制作する際など特にデータの吐き出しが圧倒的に早いので、どこからでもデータを引っ張れるなど色々な面での"楽"が増えています。」(山崎様)

制作環境の効率が上がるということが、完パケまでの時間を短縮することになり、それがそのまま顧客の満足度にも寄与することになり、共用サーバーとしてファイルベースでの制作環境を使う側のストレスが少なく、使い易いシステム環境を構築できました。

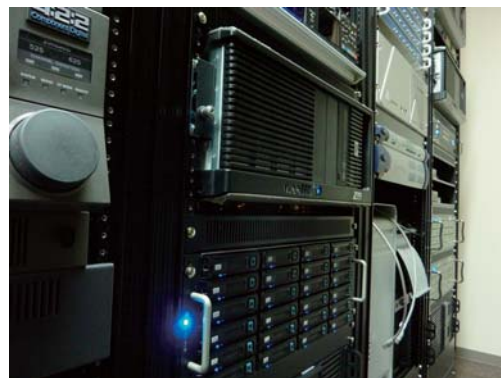
ファイルベースでの制作環境のみならず共有環境が制作作業の中核となってきた現状、今後一層、共有サーバーを中心としたワークフローが重要になってくることは容易に想像されます。

「Autodesk系に限らずDaVinci Resolveでの連番ファイルの取扱いのパフォーマンス向上が実現出来ると良いですね。」(山崎様)

スペックだけでなく、使い勝手を良くするという観点からの機能拡張などは期待されるポイントといえます。

「システムの面倒を見る専任担当者がいない現場では、使う側がシステムの事をあまり気にせず容易に管理できるツールやデータのトランスコード、検索などのツールもあるとより良い環境になっていくと思います。」(山崎様)

より一層のトータルパフォーマンスの向上とそれを簡単に使うための支援ツールなどシステムとしての機能強化拡張が期待されています。(2013年2月取材)



導入頂いたWIRED SERVERシステム



- WIRED SERVER構成 -

